

鵜戸



(鵜戸稲荷神社)

〒887-0101
宮崎県日南市宮浦3232番地
TEL0987-29-1001 FAX0987-29-1003

鵜戸神宮ホームページ

<http://www.udojingu.com/>

発行者兼編集者
鵜戸神宮社務所

暑中お見舞ひ申し上げます



宮司 本部 雅裕

鵜戸を訪れた人々⑤——小村壽太郎——

鵜戸さんのやまなみが新緑の瑞々しい季節となりました。皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。

明治時代の外交官、小村壽太郎侯（明治四十四年侯爵）は今の日南市飢肥の出身です。壽太郎侯は、安政二年（一八五五）飢肥藩五万二千石伊東家の家臣小村寛梅子の長男として生まれました。小村家は十分ではありませんでしたが、十三石といふ薄禄でした。しかし藩校振徳堂に七歳の時から入学を許され、俊才の誉高く、その師小倉処平に引率され長崎に遊学。のちに東京大学の前身である大学南校に学び、さらに文部省第一回留学生として米国ハーバード大学に留学します。帰国すると大審院判事から外務省に転じ、のちに外務大臣を二度務めます。

そのうちなんと言っても侯の一番の大仕事は、「ポーツマス講和全権委員」として、日露講和条約を締結して、日露戦争を終結させた功績であります。明治三十六年、ロシアが極東に兵力を増強したため、わが国は国家存立の危機を迎へ、翌年ついにロシアと交戦状態になりました。旅順、奉天の会戦ののち、わが連合艦隊はヨーロッパから長い航海をしてきたロシアのバルチック艦隊を日本海において完全に破り、空前の大勝利をおさめたのでした。

そこで日本の全権小村壽太郎とロシアの全権ウイッテがアメリカのポーツマスに会して講和条約を締結します。しかし国内の世論は戦勝気分在意気揚がり、樺太の北半分はロシアの領土となり、賠償金も取れなかった講和条約の内容を不満として民衆は暴徒と化し、焼き討ち事件を起こします。当然壽太郎侯にもその批判の矛先が向けられます。国辱外交と罵声を浴びせ、売国奴との怒号のなか小村全権は横浜港に帰国するといふありさまで

した。しかし、この講和条約締結は、当時の兵力や戦費が底をつき始めてゐたわが国にとって喫緊の課題であり、壽太郎侯の判断は全く正しいものでした。その後侯は、清国、英国大使や二度目の外務大臣として、明治維新以来のわが国の大きな問題であつた治外法権撤廃の仕上げを行います。明治の外交を一身に背負つた侯は、明治四十四年十一月二十六日、五十七歳で亡くなります。葬儀は、明治天皇から勅使が遣はされ、青山葬儀場において神道により斎行されました。

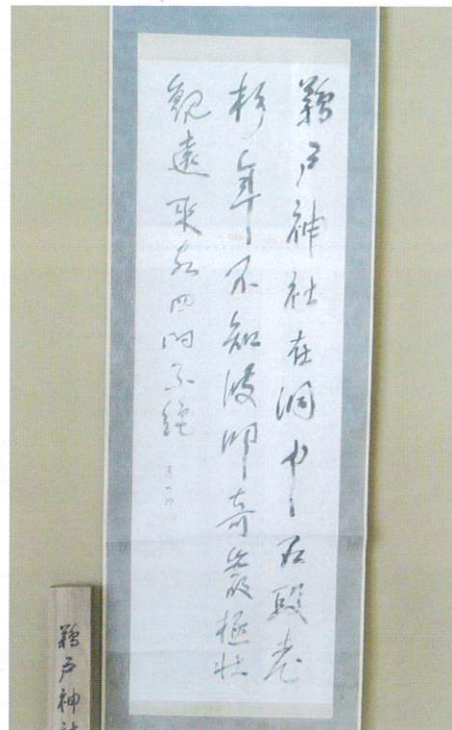
さて当地方には、新年を迎へ春三月の頃までに鵜戸神社にお詣りする風習が、古今を通じてあります。壽太郎少年のころも同じでありました。母に連れられて、または病弱の母に代わつて、一身に武士の子としてのしつけと教育にあたつてきた祖母熊子が幾度となく鵜戸さんまゐりに連れてきたこととせう。この時の印象を歌つたと思はれる壽太郎侯の漢詩が残つてゐます。悪筆として有名な侯にとっては、珍しい直筆の書と言へます。

鵜戸神社 在洞中石段 老杉年不知
波叩奇巖 極壯觀 遠來客四時不絶

壽太郎 画



小村壽太郎銅像
(日南市竹香園)



直筆の漢詩

(参考) 『日南市史』日南市役所刊

吉村昭著『ポーツマスの旗』新潮社刊

当神宮は、明治初年から同七年まで鵜戸神社と称されておりました。



浦安の舞
宮司玉串拝礼



神饌
献饌



田植彘の儀



祭典の様子
水口奉幣の儀



第31回 シャンシャン馬道中唄
シャンシャン馬道中再現



獅子舞
豊栄の舞



二月十七日、年のはじめにあたって穀物の豊穰を祈るとともに、国家の安泰を祈願する祈年祭を斎行しました。
祭典では、祝詞奏上のあとに浦安の舞が奏舞されました。浦安の舞は、昭和十五年の紀元二六〇〇年記念の奉祝の舞として制定され、今では全国の神社で広く舞はれてゐます。

祈年祭

三月二十一日、全国に先駆けて鵜戸地区御神田にて御田植祭を斎行しました。
日南地方では、七月中旬には収穫できる超早場米の作付けが各地で盛んに行はれてゐます。収穫は、餅米六十キロ・こしひかり六十キロを見込んでゐます。収穫されたお米は、新穀感謝祭、新嘗祭、例祭、伊勢の神宮に奉納されます。

御神田行事

三月二十五日、春の縁日大祭を斎行しました。翌二十六日には、「鵜戸さん参りは春三月よ・・・」が始まる「シャンシャン馬道中唄」全国大会が開催されました。併せてシャンシャン馬道中を再現する行事が行はれ、公募により二組の新婚夫婦が選ばれ、花婿が美しく着飾った馬に花嫁を乗せて当時の様子を再現しました。

春の縁日大祭



舞楽 納曾利
奉納米



参進
修祓



剣道大会



四半的弓道大会



二月一日、獻幣使杉田秀清氏(宮崎神宮宮司)ご参向のもと斎行しました。
祭典では、波の音が洞内に響き渡るなか、宮司祝詞奏上、獻幣使祭使奏上と続き、舞楽「納曾利」を奏舞。また、本年も風田地区と中央町地区より、俵で奉納米をお供へ頂きました。

例祭

奉祝奉納行事として、二月一日に四寸五分の的に四間半の距離を射抜く「第四十五回四半的弓道大会」を儀式殿前広場にて開催。
また、二月五日には「第六十四回鵜戸山顕彰剣道大会」を、悪天候の影響で日南市総合多目的体育館に場所を移し開催しました。

例祭奉祝奉納行事



吾平山上御陵
宮司祝詞奏上



二月二日、当神宮の御祭神の御陵と伝えられてをり、現在宮内庁の御陵墓参考地に指定されてゐる吾平山の頂にて御陵祭を斎行しました。

吾平山上御陵祭

紀元祭

二月十一日、建国記念の日にあたり、神武天皇の建国の偉業を仰ぎ、国を愛する心を新たにすして、皇室の永遠と国家の発展を祈る紀元祭を斎行しました。



宮司玉串拝礼
奉祝行事





現在の工事の様子



平成28年7月
仮復旧後



平成二十八年七月の大雨の影響で市道鵜戸参宮線が大規模な土砂災害に遭いました。現在、復旧に向けて工事が進んでおります。完成は当初予定していた時期よりも遅れる見込みです。現在の通行は、平日は終日通行止め、土曜・日曜・祝日は、午前八時から午後四時まで通行可能です。それ以外の時間帯及び平日は、観光駐車場をご利用下さい。

海岸参道復旧

必勝祈願祭

二月七日、広島東洋カープの必勝祈願祭を緒方監督を始め小雀選手会長他六名参列のもと斎行しました。昨年は、二十五年振りにセントラルリーグを制覇。その成果もあり全国から多くのファンや報道関係者が集まりました。祭典後には、選手揃って運玉投げに挑戦しました。



本殿にて
運玉投げ体験



修祓
奉納絵馬



必勝祈願
広島東洋カープ
鵜戸神宮
平成29年2月7日参拝

出ラインライブ奉納

三月十二日、出ラインライブが楼門前にて開催されました。俳優の窪塚洋介さんは、平成十八年より出ラインとしてレゲエ歌手の活動してをります。以前、当神宮を参拝した際にこの鵜戸の地でライブをしたいとの思ひがあり、今回の開催となりました。



ライブ中
記念撮影



リハーサル
開演前



鮪奉納



二月二十八日、日南市内の有限会社東元水産の東元壽一さんより近海で捕れたビンチョウマグロの奉納がありました。全長約一メートル、重量約二十キロ。

燈籠奉納

五月三日、燈籠奉納奉告祭を御本殿にて斎行しました。日南市在住の図師泰・サクヲご夫妻と大坂在住の図師久剛・俊子ご夫妻が、鵜戸の大神様の御恵に感謝され燈籠を奉納されました。



清祓の儀 (社務所前)



安産お守り変更

鵜戸神宮謹製
マタニティマークを
お持ちの皆様へ

授乳中の方
マタニティマークを休憩所にて
ご提示ください。
お乳の出が良くなると伝わっている
「お乳給湯」を無料にて
お飲み頂けます。

授乳期間を終えられた方
マタニティマークを当宮へ
ご返納ください。
改めてお子様の無事成長を願う
祈願絵馬とお取替えます。

お乳給湯

祈願絵馬

安産お守り
(おちちあめ一袋付)

初穂料二〇〇〇円

- ご出産後に「安産奉書書」に
必要事項をご記入下さい。
- お渡した封筒に
「お守り」と「安産奉書書」を
同封の上、ご返信下さい。
- お子様の健康をご祈願致しました
お守りをご自宅にお送り
致します。



平成二十九年四月一日より、安産お守りが新しくなりました。当神宮の御神徳である安産信仰をより多くの参拝者に知って頂けるよう専用の箱と当神宮謹製のマタニティマークを付けました。このマタニティマークを休憩所にてご提示いただいた妊娠・授乳中の方には身体に良いとされる生姜が入ったお乳アメ湯を無料にて振舞ひます。また、マタニティマークをお返しに來られた方には祈願絵馬をお渡しします。

いさみ太鼓奉納

五月五日、地元小中学校の生徒をはじめ、県内外の児童八十七名が参集し、四十一回目のいさみ太鼓奉納を行いました。

当日、児童たちはハッピー姿に鉢巻を締めて荒磯に打ちつけ碎ける波の様子を、大小の太鼓と笛・鈴で表現。これに合はせて獅子が舞ひ踊りました。



いさみ太鼓奉納



練習中
参進



敬神婦人会活動

平成二十八年度の鵜戸神宮敬神婦人会(会長長友泰子)の主な活動として、十月に神柱宮の野正八幡宮参拝。十一月、新年特別祈願ご神符発送準備作業。十二月、ジャカラダ広場にて植栽活動。一月、鵜戸恵比須神社お札所助勢。二月、佐賀県にて開催の第五十四回九州地区敬神婦人連合大会に出席しました。



総会



熊本県 阿蘇神社正式参拝
植栽作業



編集後記

○社報「第八十四号」をお届けいたします。
○表紙の写真は、鵜戸稲荷神社鳥居の写真です。平成三十年に、安政五年の勧請より百六十年の佳節を迎へるにあたり、記念事業として老朽・劣化した鳥居を撤去し、新たな建立と石段の改修工事を行いました。

○左の写真は、鵜戸稲荷神社の新しい鳥居が建立されるまでの様子の写真です。新緑の中に朱色の鮮やかな鳥居が建ち並んでおり当神宮の新たな写真スポットになっています。

○梅雨明けのみぎり、ご健勝にてお過ごし遊ばされますやう、鵜戸の宮居よりご祈念申し上げます。
(佐師)



↑



↓



←